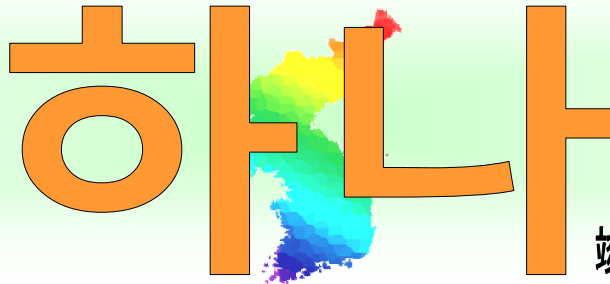


2017年 11月号
通巻 185号

発行所
岩手県盛岡市中央通3丁目8-16
電話019-651-0810
FAX019-653-1057

岩手県同胞生活相談総合センター



竣工した洗浦地区畜産基地(10/27)

毎月25日発行 0円 同胞生活情報誌 ハナ songsu75@yahoo.co.jp

県南支部情勢講演会

10月18日、県南支部情勢講演会が行われた。崔本部委員長が「朝米対決の最終局面を迎えて」と題して講演した。

70年以上「超大国」アメリカの核の脅威にさらされ続けた朝鮮が今やその「超大国」と完全なる力の均衡を誇るまでに至った現実について最近の具体的事例をもって確認した。

講師はすべての「選択肢」がテーブルの上にあるという米国だが米国に利する有効な手立ては無く朝鮮の勝利が確定的だと語り、敗北を受け入れがたく最後のあがきが続く中、反朝鮮キャンペーンが一層激しさを増すことが予想されるが、勝利への確信を持って乗り切ろうと語った。講演後「高校無償化闘争」に関するビデオが上映され、民族教育差別に立ち向かう全国の同胞と心を一つに頑張ることを確認した。

北東北青商会チャリティーコンペ

10月25日、秋田市にて『第8回北東北青商会チャリティーゴルフコンペ』が行われた。

台風による悪天候が心配されたが当日は快晴に恵まれ、同胞や東北地方の青商会会員、日本の方など総勢69名が集まった。チャリティーコンペは地方自治体によるハッキョへの助成金が支給されない厳しい条件ではあるが、青商会会員がハッキョを支援する目的で毎年行われている。

『子供達の輝かしい未来の為に！』

これからも青商会の活動にご期待下さい。



時事コラム

＜労働新聞の論調＞

ICBM 試射成功後、労働新聞の対米論調は虚勢を張るだけで情勢の急変に対応しきれていないトランプの無策ぶりを鋭く突いている。対朝鮮制裁強化に躍起になっているのも、劣勢に立たされた者の悪あがきに過ぎず「ゲームはすでに終わったのも同然」だといっている▼初のアジア歴訪を前にトランプは、共産党大会を終えた中国が対朝鮮圧力を強化することへの期待を示した。小国は大国の歯車と噛み合って回る小さな歯車だという発想で朝鮮と対峙すれば失敗する。歴史がそれを証明している▼中国共産党大会終了後、労働新聞に掲載された論評は「世界が認める朝鮮の表札は自主である」と強調した。「振り返れば、革命の途上で周辺国と深い同志的友愛を分かち合いながらも、自主の原則だけは一度も譲歩されなかったのが、金日成主席であり、金正日総書記であった」と指摘し、「今日に至り、われわれが誰かの圧力に屈して自主の原則を捨てると考えるならば、これほど大きな誤算はない」と警告した▼労働新聞の論調は、個人の見解によるものではない。多くの読者が党機関紙から学び、自国を取りまく国際情勢について語っている。自主の原則を貫くことは、金正恩時代の朝鮮の揺るぎない人民の意志だ。それを見誤り、「中国の役割」を強調すればするほど、トランプの米国は迷走し、無残な敗北を喫することになる。労働新聞の読者たちは、朝米対決の行方を冷静に見据えている。(朝鮮新報-春夏秋冬より転載)

いもじょも掲示板

■ 県南会

日時 : 11月15日(水) 14:30～

会場 : 焼肉 大門

■ ウリ信 東北地区ゴルフ大会

日時 : 11月20日(月) 7時集合

会場 : 仙台 CC

プレー費 10,374円(昼食付き)

参加費 : 3,000円

■ 北東北青商会 送年会

日時 : 11月22日(水) 19時～

会場 : 炭楽(JR大曲駅 徒歩1分)

■ 東北ハッキョ<学習芸術発表会>

日時 : 11月23日(木) 10:00～12:30

会場 : 東北朝鮮初中級学校 講堂

■ 県南会 忘年会

日時 : 12月5日(火) 18時～

会場 : 北上市内 某所(未定)

～ 訃報 ～

盛岡市在住の趙貞子さんが病氣療養中のところ10月2日、東京にて亡くなりました。満77歳のご生涯でした。葬儀は家族葬として東京で執り行われました。謹んでご冥福をお祈りします。

ドクターカンの 健康講座

第174回 『 高齢者と肺炎 』

「肺炎」で亡くなる人の多くが高齢者です。そしてそのほとんどが誤嚥による「誤嚥性肺炎」です。食べ物や飲み物をうまく食道に飲み込めず、誤って気管に入ってしまうのが「誤嚥」で誰でも経験しております。むせたり、咳き込んだり大変な時もあります。

口の中には沢山の細菌が存在しており肺炎を引き起こすことがありますこれが「誤嚥性肺炎」です。という人が起こしやすいのでしょうか。大体想像できますよね。

意識障害など嚥下の機能を低下させる病気がある人、ぜんそくや肺の病気がある人、寝たきりの人、高齢者や低栄養で体力が低下している人などです。

又、胃食道逆流症や口腔内の不衛生も原因となります。高齢者は嚥下する機能と誤嚥しても咳の反射が弱いため、気がつかない間に誤嚥性肺炎を発症しやすくなります。典型的な症状は「発熱」「せき」「たん」で、かぜと似ていますが一般のかぜより症状が強く長引きます。しかし高齢者の場合ははっきりとした症状が出にくいこともあります。

「元気がない」「ぐったりしている」「呼吸が少しおかしい」などの時は要注意のサインです。診断がついた場合はすぐ再発することもあり、完全に治るまでしっかりと治療をすることが大事です。高齢者にとって誤嚥性肺炎は一番こわい病気の一つです。高齢者の肺炎は「肺炎球菌」が多いので、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの両方の早い接種を是非すすめます。

段々寒くなってきました。食事、睡眠、適度に運動をする、の3つは健康の基本です。

もうすぐ冬になります。皆さん健康管理をしましょう。

(協力:幸クリニック院長 姜幸一先生)